

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500057		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームひょうご湊		
所在地	神戸市兵庫区荒田町3丁目82番2号		
自己評価作成日	令和6年1月21日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和6年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の生きがい作りのお手伝いをさせて頂いています。選択して頂き、了承を得て初めて支援させて頂いています。人生の大先輩として、その人の意思を尊重し尊敬の念をもって接しています。日々の暮らしの中でもご入居者様のその時の感情を大切に、接遇にあたっています。なるべく身体を動かして頂き、食事の用意や洗濯など出来る事をして頂く、自立支援の精神で家庭復帰も視野に入れて取り組んでいます。日本の文化や季節を感じられるよう、節分やひな祭り・夏祭り・クリスマス会などを組み込み、併設のデイサービスと合同で、演芸・音楽療法・アートセラピー・大正琴などのボランティアを楽しんでいます。現状、コロナウイルス感染症が5類になり感染状況に応じ、一部ではありますが外部ボランティア様に来訪して頂いています。また、施設内で、今は入居者様だけで行っていますが、まんてん喫茶と言うイベントを行っています。将来、地域の方を巻き込んだ、ふれあいの場に行きたいと思っております。また、個々のニーズに合わせた対応をしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年経ち地元での認知度も高く、地域に溶け込んでいる。入居者のコロナ感染を阻止している感染防止策の一環として、地域交流活動を制限してきたが、今年は音楽療法のボランティア受け入れなど徐々に再開し始めている。身体を動かし笑顔で毎日を送って頂くため、食事の用意や洗濯などは入居者の思いや意向を尊重しながら出来る範囲で役割分担をしている。また食事やおやつを作るレクレーションを開催したり、リビングでお菓子を味わう「まんてん喫茶」を行うなど談笑の場と食の楽しみも大切にしている。コロナ禍でも職員は時間帯や場所などを考え、感染対策を講じて、近隣の散歩や買い物、お花見や菊花展鑑賞などに出かけることができている。協力医療機関と連携して開設以来多くの方を看取っており、今年度も二人の方を安らかにお見送りした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームひょうご湊

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時にまんてん堂の理念の説明を受け、フロアにも理念を掲げている。また、面談等で話し合う機会を作り、職員、管理者の間で共有できるようにしている。	3箇条の法人理念に加えて、職員で話し合っ作った「入居者とスタッフが笑顔で暮らす」を事業所独自の理念として掲げ、フロアの壁に掲示している。入職時の研修等で共有し、その方を尊重し敬意の念を持って笑顔で接することを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と地域の夏祭り行事などに参加したり、地域の小学校の登校時の安全誘導にできるだけ参加することで交流を深めるようにしている。コロナウイルス感染症が5類になりましたが、現状一時中止にしている。	以前参加していた地域の夏祭りや近隣小学校の安全誘導などは、感染症対策のため中止しているが、音楽療法などのボランティアは再開している。玄関にある庭に水遣りをする際、登下校の子どもたちや近隣住人と挨拶などもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に参加し、交流を図っている。また、デイサービスと合同で消防訓練を行ない、近隣にお知らせしている。コロナウイルス感染症が5類になりましたが、現状一時中止にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、2ヶ月に1度の運営推進会議は、書面にて実施し、家族から出た意見をもとに取り組んだサービス等の報告を行い、さらにサービスが向上するよう努めている。また、地域の方からの発信の場としても情報を提供して頂いている。	運営推進会議は必要な出席メンバーを揃え隔月開催していたが、現在は感染症対策のため中止し書面で報告して意見を伺う形となっている。議事録は全家族にも送付している。現在はまだ対面開催を再開する状況でない判断している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、あんしんすこやかセンターの職員が参加され、GHの生活の様子を伝えたり、運営に関しての助言や地域の情報の交換ができる場となっている。	地域包括支援センターは運営推進会議でも意見をもらっており、入居相談の紹介や研修、「介護リフレッシュ教室」の誘いなど日常的に連絡を取っている。また、近隣病院からも、医療に関する専門的な研修の案内もあり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員研修では必須事項とし、現職職員には年2回社内研修をおこない、3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を行い、どのような行為が身体拘束に当たるのかを周知徹底している。	虐待防止と併せた年2回の研修と、年4回の身体拘束適正化委員会を行っている。安全のためユニット入口は施錠しているが、玄関は日中開錠しており戸外に出ることも出来る。夜間に人感センサー等を使用している方が1名おり、毎月必要性を見直している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員研修では必須事項とし、現任職員には年2回社内研修をおこない、事業所内で起りやすい場面などを例に出し、自分たちの行動が虐待になっていないか考えながら介助にあたるように注意を促している。	年2回の研修と「虐待の芽チェックリスト」を活用し、虐待防止に努めている。不適切な言動を見聞きした場合は、面談で指導したり、会議で話し合い共有している。年1回、セルフ方式でストレスチェックを行い、必要なら産業医と面談できる仕組みがある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方がいます。制度を理解しているが、充分とは言えない。学ぶ機会を設定しなければならない。後見人とは必要な情報交換が出来ている。	成年後見人の付く入居者が4人いる。金銭管理や入院手続きが必要な時などに代行署名してもらう民間サービスを利用している入居者も1人いる。制度の資料は準備し、家族からの利用の相談にも対応しているが、内部研修の実施には至っていない。	認知症高齢者の権利擁護は社会的課題でもあり、制度は今後も益々ニーズが高まってきます。ぜひ内部研修を行い、職員の理解を深めていかれることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明の際に、契約に関しての内容や、それ以外にもグループホームでの生活について不安に感じている点を聞くようにしてその都度答えている。	事前見学時の案内と説明に加え、契約時には重要事項説明書等を読み上げ2時間ほどかけ丁寧に説明している。最期までみもらえるかなどの質問があった場合は、常時医療が必要でなければ指針に沿って看取りも行うことを伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置している。運営推進会議で出た意見や、来訪された際に頂いた意見は職員全員が把握し、殆どが職員や管理者に直接伝えられている。	家族の意見や要望は来所時や運営推進会議案内の返信、電話等で伺っている。塗り絵をする、日記を書くなどの要望があれば職員に伝え対応し、後日様子を報告している。お正月に家族と過ごすために短時間の外出をされ、とても喜ばれた。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	36協定にて職員代表を設置し、各事業所の職員の会社への意見を吸い上げている。朝礼や職員会議の時間には、会社の取り組みについて管理者から職員に伝えたり、話し合える時間を持つようにしている。	毎月行うフロア毎のミーティングや、個別の面談などで職員の思いや意見を聞いている。また、フロアをラウンドした際、職員に声をかけ思いを聞くこともある。今年度は行事企画を全職員から募った。公休で行く研修についての意見があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与は評価制度を導入している。また、面談では個別に話し合って目標を設定し、向上心を持って仕事に取り組めるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修に積極的に参加できるようにし、スキルアップを図っている。また、考課面談以外にも管理者と職員とで個別に面談を実施し、ケアに困っている事などを話す機会を作っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、まんてん堂の管理者ミーティングがあり、情報共有や相談をしている。兵庫区のグループホーム連絡会に参加し同業者との関係性を構築し情報交換の出来る場になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族様、本人より要望や不安な点をお聞きし、早期の信頼関係の構築に努め、入居後も本人に確認しながら、職員間で情報共有し、生活歴や趣味などを活かしたケアを行い、良い関係作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談から入居当日の間まで同じ職員がご家族と関わりをもつことで、安心してもらえるように努めている。また、担当職員を決め、より馴染みの顔になれるようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談を元に当面の介護計画書を作成し、情報収集をしながら本人の状態や要望を把握するよう努めている。その中で他のサービス利用も視野に入れて検討するようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位のケアになっていないか、常に職員同士でチェックし合うようにしている。また、日々の会話などから得た入居者の要望や希望をどう実施するかを、入居者と一緒に考えるようにし思いを大切にしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れないよう、入居時の説明で、出来るだけ様子を見に来て頂けるようお願いしている。来訪時には、コロナウイルス感染予防の為、面談室にて楽しんでもらう時間をもって頂いている。何か変化があった場合、こまめにお伝えしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外のなじみの関係の方にも来所して頂けるようにしている。また、会いたい方がいらっしゃった場合、家族様に確認し電話や来訪して頂いている。	感染防止のため、買物や外食などは中止していたが、時間や場所を工夫しながら、近隣散歩や短時間の外出などを行っている。面会も時間を決め、面談室で行っている。入居者の様子や体調を知らせる写真入りの手紙を隔月で家族に送っている。	季節の行事やクッキング、近隣散歩など、施設全体の様子が分かるおたよりを作成中と伺いました。ぜひ完成させ、今後も定期的に配布されることを期待します。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持ちやすいよう、職員が橋渡しの役目をして良好な関係をもてるようにしている。また、調理や洗濯物をたたむ等の家事を協力して行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設・病院への転院があまりなく、ご逝去での契約終了が多い。契約終了後に関係性を持つことがあまりない。今後は、在宅復帰を目指しケアを行っていくようにし、継続して関係性を続けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談で、今までの暮らし、これからの希望・趣味や趣向をお聞きしケアに反映させている。入居後はそのケアが合っているのか全員で評価する。居室担当が中心に、アセスメントを行い次のケアに繋げて行く。	入居者の思いや暮らし方についての意向は入居時の聞き取りを記録した情報シートや入居後のケース記録で職員が共有し、介護計画や支援内容に反映させている。日々の生活の中でも自ら選択や決定が出来たり、本人のペースで暮らせるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際に本人や家族からこれまでの暮らし方等の聞き取りを行い、そこで得た情報をアセスメントの入居前情報に記載し、入居後の過ごし方や介護計画書作成に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に全入居者に挨拶しその日の気分や体調にあった接し方をするようにしている。また、表情や体調、身体状態に変化を感じられたら職員間ですぐに共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のサービスを、ケア記録に落とし込み毎日チェックし、1ヶ月の評価をする。フロア会議にて毎月意見を出し合い、現状で最適なプランを作成している。家族の意見などは、サービス担当者会議や、普段寄せられたご意見を盛り込んでいる。	職員が毎日ケアプランの実行状況をタブレットでチェックしている。その結果をもとに計画作成担当者が毎月モニタリング資料を作成してフロア会議で話し合う。原則3箇所ごと及び状態に変化のある都度、サービス担当者会議を開き介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等は個別のケース記録に記入している。特変があった時は朝礼で報告して職員間で共有し、介護計画書の見直しや日々のケアの見直しに活かすようにしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為中止しているが、併設のデイサービスと連携した行事や外部ボランティア・外出・個別支援などニーズに合わせた支援を行っている。9月より回数は少ないが、外部ボランティアのイベントを再開している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為中止しているが、地域包括支援センターから情報を頂いて、出来る範囲で地域のプログラムへの参加をしているがまだまだ不十分である。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療関係の説明をするが、家族様・本人の希望をお聞きしている。月2回の協力指定医による往診と訪問看護と連携し、必要ならば、ご家族の協力を得て外部受診を行なっている。	入居者全員が入居時に協力医をかかりつけに選択し、月2回の往診を受けている。訪問看護師の訪問も月2回あり、歯科医の往診と歯科衛生士による口腔ケアも月1回から4回ある。他科受診は家族の付添いが原則だが、無理な場合は職員が付添っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師により健康チェックを行い、医療面での相談も行なっている。必要ならば往診医と連携を図っている。訪問日以外でも、変化のあったときは、電話にて相談し連携を図っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、入居者様が治療に専念できるようにしている。また、定期的の様子をお伺いし情報を得ている。退院時のカンファレンスに参加し、事業所にて受け入れの体制を整えている。	入院時は介護サマリー等で情報を提供し、家族や地域連携室から容態等の情報を得ている。退院時にはカンファレンスがあれば参加し、なければ看護サマリーをもらうなどして嚙下状態や食事形態などの情報を入手し、退院後のスムーズな生活に繋げている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りに関する説明を行い同意を得ている。また、定期的に家族様の意思の確認を行ない、その都度対応している。往診医や訪問看護と密に連携し、家族様とカンファレンスを行い方向性を確認している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明している。実際に終末期に入った場合は、医師から説明と話し合いをしてもらう。本人・家族の希望があり可能ならば、計画を作成して看取り介護を実施する。今年度は二人の方を安らかに見送った。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修などで定期的に緊急時対応の勉強会を行なっている。また、フロア内に緊急時マニュアルを掲示している。また、訪問看護・往診医も24時間体制で連携しており、管理者への連絡経路を確立している。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間、夜間を想定した避難訓練を行っている。参加できなかった職員にも、後日資料を配布し動きの確認をしている。地域の方の参加も協力要請している。	年に2回、併設のデイサービスと合同で、入居者も参加する避難訓練を行なっている。火災は昼間と夜間を想定し、水害は3階への避難を想定している。職員の安否確認システム稼働訓練も行なっている。非常時の食料と水は4日分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に、個人情報・接遇・プライバシーの研修を全職員が受けており、職員がお互いに注意し合える環境が出来ている。個人情報話す場合は、個人が特定されにくい居室番号で言うようにしている。	接遇やプライバシー保護等の研修を年に数回行っている。名前は苗字で、同姓の場合はフルネームで呼び、居室への入室は本人が室外でも必ず許可を頂く。洗濯物は自分でたんでいる。不適切な言動があった場合は個別指導や話し合いを行い改善している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを話しやすいように環境を整えたり、職員には、選択できる声掛けを行うように指導している。日々の生活の中でも、選択し自己決定して頂ける場面を作るようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方を大切にしようという心がけ、本人の意見や希望を聴きながら日常生活の全てを本人のペースに合わせられるように心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んでいただけるように対応している。選ぶことが困難な入居者様にも、声かけして見てもらい、反応などをみながら対応している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に、盛り付けや、後片付け等希望を聞きながら一緒にするようケアプランに反映している。月1回不定期ではあるが、食事レクの機会を設け入居者様と一緒に準備をしている。	ご飯とお汁はキッチンで作り、主菜・副菜は業者から届く調理済みの食材を利用している。入居者も調理に参加して作るホットケーキ等のおやつ、餃子・お好み焼等のレクレーションを不定期で、またリビングでの「まんてん喫茶」を毎月行っている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嚥下状態を確認し、適切な食事形態にて召し上がって頂いている。水分や食事量のチェックを行い、適切であるか判断している。また、水分量の足りない方は、個別にてお好きな飲料水を購入している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の衛生を保っている。訪問歯科による検診で、その方にあった口腔ケア方法について指導を受け、実施している。自力で口腔ケアをする方にも、確認させていただきようとしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンの把握に努め、定期的にトイレ誘導が必要な方に実施している。その際は自尊心に配慮して行なうよう声のかけ方などに気をつけている。	布パンツの方は少数で、殆どがリハビリパンツを使い、おむつの方も2人ほどいる。排泄チェック表でパターンを把握し、時間を見計らって声掛けをして、殆どの方がトイレでの排泄を行なえている。おむつやパッドの使用には家族の了解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族にも協力してもらいながら、乳酸菌飲料・ヨーグルトを要したり、水分量や食事量の把握をし適切な運動を心掛けている。また、訪問看護師に、腸の動きや満腹感の確認をして頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は設定しているが、選択できる声掛けを行っている。気分がすぐれない場合や体調が悪い場合は、翌日等に振替を行っている。一対一でのケアを行い、声掛け・入浴・脱衣等、本人が難しい所の支援をしている。	ユニットの個浴を使い週2回入浴している。3階ユニットの個浴にはリフトもついているが、入居者のADLが落ちている為半数の方はシャワー浴である。同性介助はほぼ出来ている。季節にはゆず湯・しょうぶ湯も行い、入浴剤で温泉気分を楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や様子をみて居室での静養が必要な時には休息を進めている。また、夜間しっかり休んで頂けるように日中の活動量を増やし安眠に繋げている。不安等で寝つきが悪くなる方には、落ち着いていただけるよう傾聴に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については細心の注意を払い、スタッフ複数と本人に確認して服薬している。処方されたお薬情報をファイリングし、スタッフで情報共有している。薬が変わった場合は、特に様子観察・記録を行い情報共有し、必要ならば訪問看護・往診医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	面談時に生活歴・嗜好を聞き取りし、無理のないように日常の役割分担をケアプランに反映している。また、希望される事を出来る範囲で計画し個別支援を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事による、外出の計画を行っている。月に1回の買い物の外出や、欲しい物がある場合、個別にて買い物に行ったり、希望に合わせて周辺の散歩を行っている。コロナウイルスが5類になってからは、人が多い時間帯等は避け感染状況を見ながら、不定期であるが実施している。	コロナ禍でも緊急事態宣言解除後は近くの公園などへ週に1回は散歩に出かけている。また今年度はお花見や菊花展鑑賞など、季節の外出行事もほぼ全員参加で実現することが出来た。不定期だが人通りの少ない時間帯に近くへの買物にも出かけている。	コロナ禍でも感染状況を見極めながら日常の散歩や買物、花見・菊花展鑑賞などの外出行事を実現できているのは高く評価できます。今後も外出支援への積極的な取り組みを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に、小額の現金を入れてご自分で持つことで安心される方には、自己管理にて持っていていただく。基本は、事業所立替をしている。買い物に行かれた際は、お金の支払い・お釣りの受け取りは、入居者様にして頂き、実際にお金に触って頂く機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にも協力を頂き、声が聞きたくなくなったときには電話でお話することで本人の安心につながっている。お手紙が届いたときには返事を出せるように支援している。ライン電話にて、お顔を見ながらお話して頂ける様にもしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾りや、壁画を貼っている。イベントの時に撮影したご入居者の写真を展示して、来訪された方にも見ていただけるようにしています。日中はできるだけ外からの明かりが採れるようし、エアコンや加湿器・空気清浄機等で快適な空間維持している。	リビングの壁には額絵の他に職員の手になる美しい龍の切り絵や、入居者と一緒で作った梅の花の貼り絵など季節を感じられる作品が飾られ、温かい雰囲気を感じている。2時間ごとに換気と消毒を行い、加湿器と空気清浄機を使って温湿度を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、ソファや椅子を配置し自由に使って頂ける環境を作っている。また、職員が普段の様子を確認しながら、気の合う方や個人で過ごしたい方など、座席の配置を配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、本人が使い慣れたものや家具を持ち込んでいただき、過ごしやすい居室となるように配慮している。また、居室の入り口には手作りの表札を掲げたり、職員が居室に入る際は、入居者様の同意を得てから入室している。	居室にはベッド、エアコン、カーテンと戸棚が備え付けてある。掃出し窓の鍵を開ければベランダに出て外を眺めることもできる。小さなタンスや机、椅子など好みの家具を持ち込んで居心地を良くしてもらっており、仏壇やお骨を置いていた方も居た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内のテーブルの配置など、入居者ができるだけ自分で生活できるように意識し、環境づくりに取り組んでいる。トイレや居室には、張り紙などを掲示し混乱されないよう環境を整えている。		